

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田中学校	校長	松本 貴文	担当者名	相田 健太郎
-----	-------------	----	-------	------	--------

取組事例名 『体育祭 全員参加による「応援ダンス」の取組』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

○他者と協働して，自分たちの生活をより良くするための課題を解決する力（課題解決能力・自治的能力）

取組のねらい

○自分たちの学校行事を自分たちの手でつくり上げる活動を通して，学級・学校生活への参画意識を高めさせるとともに，仲間と協力して課題を解決する力を身に付けさせる。
○一人一人に役割を果たさせることを通して，達成感や自己肯定感をもたせる。

取組の具体的内容

取組の創意工夫

体育祭で全員参加による「応援ダンス」を実施
○体育祭（9月実施）において，これまでは有志生徒による応援団のみが演技していた応援合戦を，生徒全員参加の「応援ダンス」に変更し，全校で取り組んだ。
・今年度，感染症対策で体育祭のプログラムを縮小・変更する必要が生じた。生徒一人一人の出場種目が減り，仲間とつながる種目の実施が困難な中，実行委員会で検討を重ね，「吉田中から地域に元気を発信しよう」を合言葉に，全員参加の応援ダンスを実施することにした。
・3学年縦割り赤・白・青の3チームを編成し，夏季休業中，3年生を中心に各チームで，「密を避けつつみんなで楽しめるものにする」「吉中から地域へのメッセージを表現すること」という二つのテーマに沿って，オリジナルのダンスを創作した。
・練習は，3年生が下級生の学年リーダーにダンスを指導し，学年練習⇒全体練習という流れで練習を行った。
・当日は，多くの来校者の前で，どのチームも元気いっぱいの演技を披露し，盛大な拍手を受けることができた。



・コロナ禍の中で，どのような体育祭にしたいのか，どのような形なら実施できるのか，生徒会執行部で話し合う場を設定した。
・はじめに「コロナ禍の中，がんばっている自分たち，保護者や地域の方たちに元気を与えるメッセージを発信する」という目的を確認させ，取り組む中で常にそのことを意識させるようにした。
・生徒会が「極限 ～力の限り～」というスローガンを掲げ，生徒朝会などで呼びかける等，困難な状況の中でも，みんなで最高のものをつくり上げようという機運を高めるよう取り組ませた。
・応援ダンスの構想段階から，できるだけ生徒たちの手に委ね，指導者はその支援に徹するよう心がけた。
・保護者にも審査をお願いするなど，外部からも自分たちの頑張りが評価され，達成感や自己肯定感を得られるよう工夫した。

取組の成果と課題

○はじめは，これまでの「応援合戦」のイメージが強すぎて，新しい取組に前向きになれない生徒も見られたが，活動が軌道に乗ってからはどのチームも非常に意欲的に取り組むことができた。多くの生徒から「はじめは不安だったが，みんなでやりきることができてよかった」といった声が聞かれた。
○2学期に実施した生徒アンケートの「自分のよさはまわりの人から認められていると思います」という問いに対して 82.3%の生徒が肯定的な回答をしている（1学期は 77.0%）。学校全体として自己肯定感が高まっていることがうかがえる。

